

船舶事故等調査報告書

平成23年8月25日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2010仙第67号	
事故等種類	運航阻害	
発生日時	平成22年7月16日（金） 13時50分ごろ	
発生場所	山形県酒田市飛島南東方沖 飛島灯台から真方位151° 9.5海里付近 （概位 北緯39° 03.8′ 東経139° 39.4′）	
事故等調査の経過	平成22年8月2日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（仙台事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報		
船種船名、総トン数	旅客船 ニューとびしま、223トン	
船舶番号、船舶所有者等	120066、山形県酒田市	
乗組員等に関する情報	機関長、三級海技士（機関）	
死傷者等	なし	
損傷	右舷主機の操縦装置軸受台が破損	
事故等の経過	<p>本船は、船長及び機関長ほか3人が乗り組み、乗客94人を乗せ、飛島南東方沖を南東進中、平成22年7月16日13時50分ごろ、右舷主機の回転数が低下したことから機関長が点検したところ、調速機から燃料ポンプに至るリンク機構の軸受が設置された台（以下「操縦装置軸受台」という。）が破損していた。</p> <p>本船は、左舷主機のみで酒田港に帰港した。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 南南西、風力 1</p> <p>海象：波高 なし</p>	
その他の事項	<p>本船は、2機2軸船で、平成元年4月に進水した。</p> <p>主機は、調速機からの出力信号が、リンク機構を介して各シリンダの燃料ポンプの燃料調整軸に伝えられ、燃料噴射量が調整されるようになっていた。</p> <p>右舷主機は、操縦装置軸受台の軸受設置部周辺が破損して遊離し、リンク機構が燃料噴射量を減少させる方向に働いていた。</p> <p>操縦装置軸受台の破損面は、一部に金属光沢があったが、ほとんどが錆による黒色を呈していた。</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>あり</p> <p>なし</p> <p>本船は、飛島南東方沖を南東進中、右舷主機が、操縦装置軸受台が破損したことから、リンク機構が燃料噴射量を減少させる方向に働いて回転数が低下し、操縦不能になったものと考えられる。</p> <p>右舷主機の操縦装置軸受台は、破断面が黒色を呈していたことから、経年使用により発生した亀裂が長期間にわたって徐々に進行し、破損に至っ</p>

		<p>た可能性があると考えられる。</p> <p>機関長が、操縦装置軸受台を含むリンク機構の点検を定期的に行っていれば、操縦装置軸受台の亀裂に気づき、本インシデントの発生を回避できた可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本インシデントは、本船が飛島南東方沖を南東進中、右舷主機の操縦装置軸受台が破損したため、右舷主機が操縦不能になったことにより発生したものと考えられる。</p>	